

訪問看護師版 暴力のKYT場面集



本場面集は、訪問看護師のための暴力のKYTを行うことを目的に作成されたものです。



Contents

A. 暴力のKYTとは	1
B. なぜ訪問看護師に暴力のKYTが必要なのか	2
C. 訪問先での暴力のKYTの場面	4
○場面1　泥酔している利用者に対応する	4
○場面2　大きな声で怒る利用者に対応する	5
○場面3　無言で反応のない利用者のバイタルサインを測定する	6
○場面4　不機嫌な利用者の足浴をする	7
○場面5　お茶を飲むよう強く勧める利用者に対応する	8
○場面6　帰る際、近寄ってくる利用者に対応する	9
○場面7　利用者と家族のケンカの仲裁をする	10
○場面8　血圧測定中、不自然に近づいてきた家族に対応する	11
○場面9　業務外の要求をする家族に対応する	12
D. 暴力のKYTシート	13

A 暴力のKYTとは

1973年、「ゼロ災害全員参加運動」開始に伴い、危険予知訓練は労働災害防止のために考案され、改良を重ねてきた手法であり、KYTのKは危険、Yは予知、Tは訓練（トレーニング）を意味する¹⁾。暴力のKYTも、単に死亡・休業災害がなくなればよいという考え方ではなく、職場や作業にひそむすべての危険を発見・把握・解決し、暴力による健康障害や労働災害を根底からゼロにしていく理念ならびに4ステップ²⁾で進めていくことは同じである（表1）。医療事故のKYTは、患者が被る医療事故の発生防止を目的としているが、暴力のKYTは職員が被る暴力事故の発生防止を目的としている（表2）。医療事故では加害者が職員で被害者が患者であるのに対し、暴力事故では加害者が患者で被害者が職員という点で異なる。暴力行為者は患者に限定されるものではないが、職員が被る暴力被害の頻度が高くその影響は深刻であり、職場にひそむ危険に気づき、解決していくための訓練が必要となる。医療事故の発生要因はヒューマンエラーと言えるが、暴力事故は本人の錯誤や不注意で引き起こされるのではない。

表1 暴力のKYTの4ステップ

ステップ	内容	進め方
1	危険要因を想定する どんな危険があるのか	潜在する危険を発見・予知し、危険要因により引き起こされる現象を想定する
2	重大な危険要因と現象を絞り込む 重要な危険ポイントは何か	予知した危険要因と現象のうち重大な危険要因を絞り込み、◎をつける
3	具体策 自分ならこうする	◎印をつけた重要な危険要因と現象を解決するために、具体的で実行可能な対策を考える
4	チーム行動の目標 私たちはこうする	具体策から重点項目を絞り込み、それを実施するためのチーム行動目標を設定する

出典先：三木明子、黒田梨絵：暴力のKYT場面集

<http://www.kmu.ac.jp/faculty/fon/field/topics/seishinkango/index.html>

表2 医療事故のKYTと暴力のKYTの比較

	医療事故のKYT	暴力のKYT
1. 目的	医療事故の発生防止	暴力事故の発生防止
2. 加害者・被害者	加害者：職員 被害者：患者	加害者：患者 被害者：職員
3. 発生要因	ヒューマンエラー	本人の錯誤・不注意で発生するものではない
4. ツール	イラスト・写真	イラスト
5. 研修方法	主に机上で話し合い	主にロールプレイをしながら話し合い

出典先：三木明子、黒田梨絵：暴力のKYT場面集

<http://www.kmu.ac.jp/faculty/fon/field/topics/seishinkango/index.html>

引用文献

- 中央労働災害防止協会編：危険予知活動トレーナー必携. 東京：中央労働災害防止協会, 103-127, 2012.
- 三木明子, 友田尋子：事例で読み解く 看護職員が体験する患者からの暴力. 東京：日本看護協会出版会, 75-76, 184-193, 2010.

B なぜ訪問看護師に暴力のKYTが必要なのか

訪問看護師の皆さんの中には、「暴力ってそんな大げさに考えなくてもいいのでは?」「暴力ってそんなにあること?」と思う人もいるだろう。本場面集における用語の定義¹⁾をご覧いただきたい(表3)。少しも思い当たることはないだろうか。

表3 用語の定義

【暴力】

身体的暴力、精神的暴力（言葉の暴力、いじめ、セクシュアルハラスメント、その他いやがらせ）をいう。

【身体的暴力】

他の人や集団に対して身体的な力を使って身体的、性的、あるいは精神的な危害を及ぼすものをいい、例えば、殴る、蹴る、叩く、突く、撃つ、押す、噛む、つねる等の行為をいう。

【言葉の暴力】

個人の尊厳や価値を言葉によって傷つけたり、おとしめたり、敬意の欠如を示す行為をいう。

【セクシュアルハラスメント】

意に添わない性的誘いかけや好意的態度の要求等、性的ないやがらせ行為をいう。

出典先：日本看護協会：保健医療福祉施設における暴力対策指針

<https://www.nurse.or.jp/home/publication/pdf/guideline/bouryokusisin.pdf>

※暴力の表現が様々混在しているが、出版物通りの表記とする。

訪問看護師を対象とした実態調査を紹介する。全国調査²⁾では、「これまでの訪問看護業務経験の中で、身体的暴力を受けたことがある」が33.3%、兵庫県内の調査³⁾では、「暴力（身体的暴力・精神的暴力・性的嫌がらせ）を受けたことがある」が50.3%であった。さらに全国訪問看護事業協会の調査⁴⁾での各暴力の経験率は、身体的暴力45.1%、精神的暴力52.7%、セクシュアルハラスメント48.4%であった。また、訪問看護師や管理者が苦慮しながら、暴力に対応した報告もある⁵⁾。訪問先での暴力事案は決して‘稀なこと’ではなく、現場では暴力への対応に大きな労力がかかっており、職員の安全を守る視点で防止策を講じなければならない状況である。

在宅ケアの現場には、様々な暴力・ハラスメント被害の危険性⁴⁾があると指摘されている(表4)。「利用者宅に原則一人で訪問して業務にあたる」ということは、「その場で」自らの「安全が脅かされる危険性の判断」をしなければならない。この場合、危険である相手は利用者や家族であるが、訪問看護師にとってはケアの対象者である。そのため同時に「ケアの必要性・緊急性の判断」も求められるのである。これらの職場特性をふまえ、訪問看護師が利用者や家族による暴力を防止できるようにするために、継続的な研修や教育を受ける機会が求められる。

兵庫県は訪問看護師・訪問介護員安全確保・離職防止対策事業として、相談窓口の設置、対応マニュアルの作成、研修実施において、先進的に取り組んでいる⁶⁾。少しずつ社会的な問題として認識されつつあるが、訪問看護師が適切に暴力に対応することができるためには、研修が必要である。

暴力のKYTは、暴力に対して具体的な行動レベルでの防止対策を検討できる。また、検討方法を習得すれば、事業所内での継続した取り組みが可能である。『訪問看護師版暴力のKYT場面集』を、訪問看護師が安心して働く職場づくりのために、是非活用していただきたい。

表4 在宅ケアの現場における暴力・ハラスメント被害の危険性

- 利用者宅に原則一人で訪問して業務にあたる。
- 女性スタッフが9割以上と性別に偏りがある。
- サービスを提供する職場環境の密室性がある。
- 事業所と利用者宅までの物理的距離がある。
- 24時間訪問巡回サービスを展開している事業所が多い。
- 利用者宅で緊急通報をすることは困難である。
- 利用者宅に人を攻撃するためのあらゆる道具が豊富に存在する。
- 利用者や家族からの暴力・ハラスメント被害の履歴やリスクに関する情報が少ない。
- 小規模事業所が多く、十分な安全対策を講じることが難しい。

出典先：三木明子監修・著、全国訪問看護事業協会編著：訪問看護介護事業所必携！ 暴力ハラスメントの予防と対応。メディカ出版

引用文献

1. 日本看護協会：保健医療福祉施設における暴力対策指針, 4, 2007. <https://www.nurse.or.jp/home/publication/pdf/guideline/bouryokusisin.pdf>
2. 武ユカリ, 畑吉節未：在宅ケアにおけるモンスターペイシェントに関する調査, 在宅医療助成勇美記念財団助成. <http://www.zaitakuiryo-yuumizaidan.com/main/result.php?year=2008>
3. 林千冬, 今岡まなみ, 藤田愛, 山崎和代, 遠藤理恵, 花井理紗：訪問看護師が利用者・家族から受ける暴力の実態と対策－兵庫県下における実態調査の結果から－. 訪問看護と介護22：847-857, 2017.
4. 三木明子監修・著、全国訪問看護事業協会編著：訪問看護介護事業所必携！暴力ハラスメントの予防と対応。大阪：メディカ出版, 199-207, 2019.
5. 藤田愛, 村崎郁子, 牛渡君江他：特集 あなたならどうする？訪問看護におけるトラブル. コミュニティケア18：10-28, 2016.
6. 兵庫県看護協会, 兵庫県：訪問看護師・訪問介護員が受ける暴力等対策マニュアル. https://www.hna.or.jp/for_nurses/n_visiting_nursing/against_violence/



訪問先での暴力のKYTの場面

場面

1

泥酔している利用者に対応する

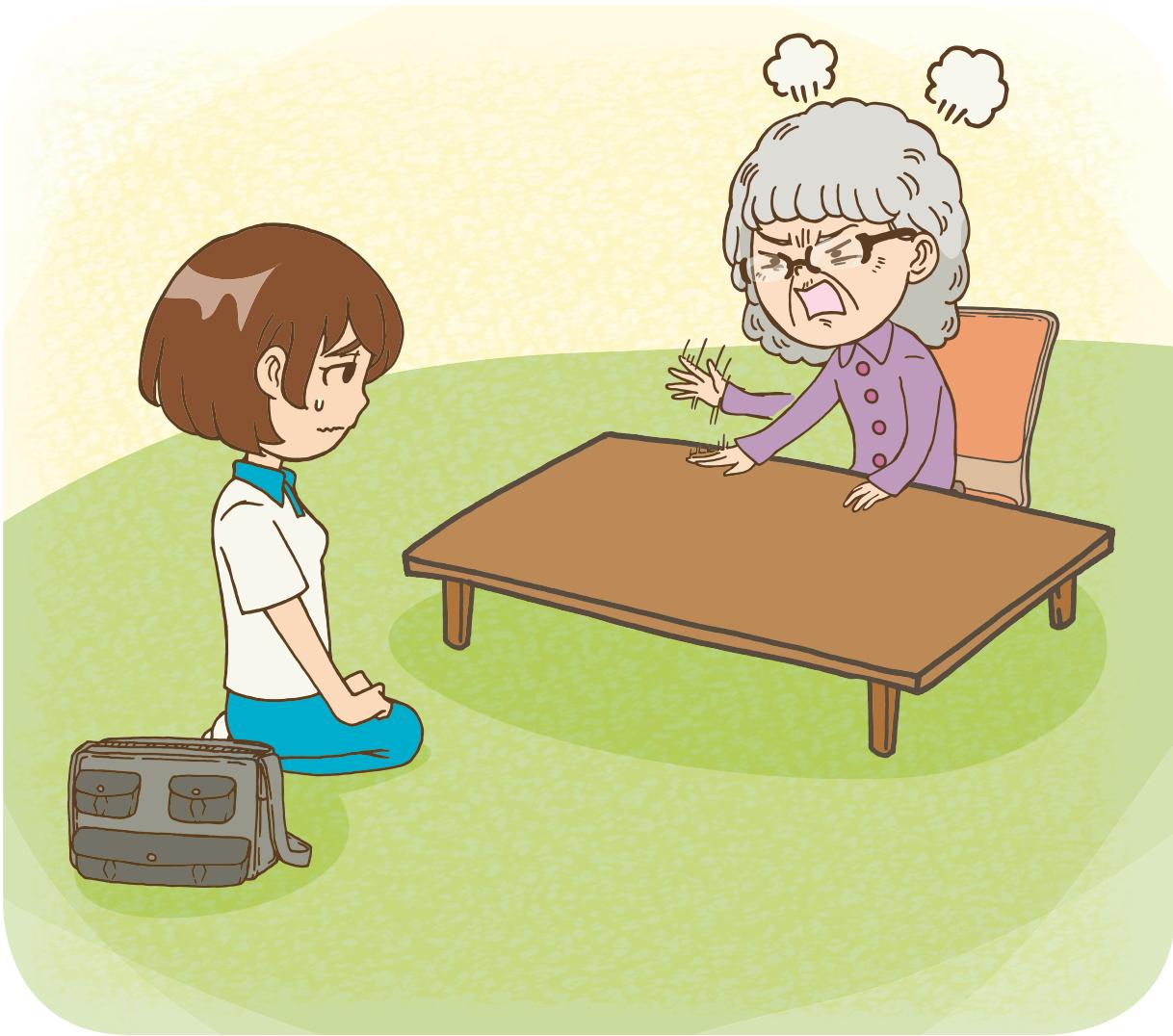


〈状況〉

あなたが訪問すると、玄関先で酒癖の悪い利用者が泥酔している。

場面
2

大きな声で怒る利用者に対応する



〈状況〉

利用者は不満を言い出すと止まらなくなることがあった。あなたが訪問すると、「ちょっと座って！」と大きな声で怒り出した。

場面
3

無言で反応のない利用者のバイタルサインを測定する



〈状況〉

利用者は日常、気分にムラがあった。今日の利用者は無言で反応がないが、あなたは血圧測定をしようとする。

場面
4

不機嫌な利用者の足浴をする

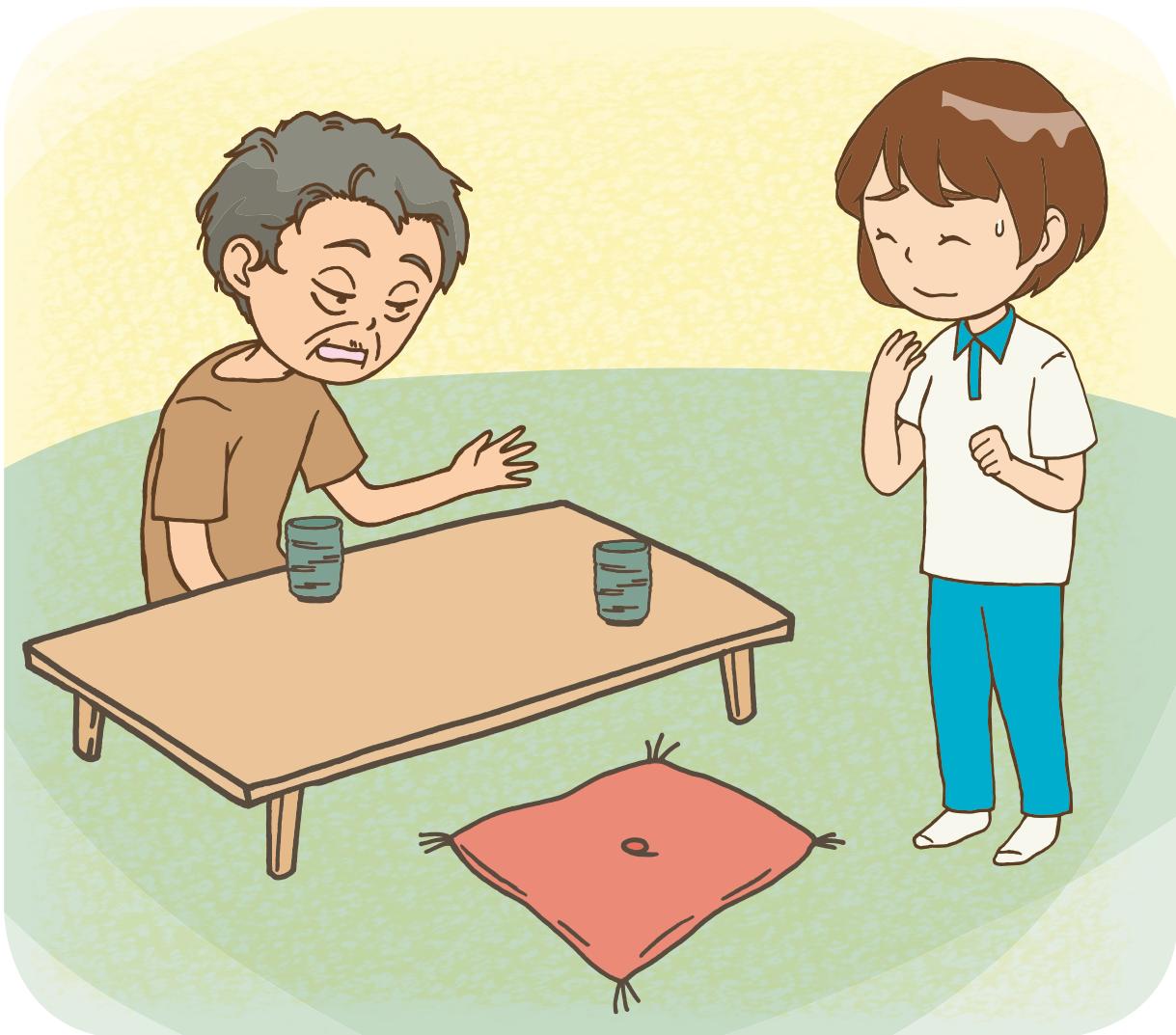


〈状況〉

利用者は過去に暴力行為があった。今日の利用者は不機嫌そうだが、あなたは足浴をしようとする。

場面
5

お茶を飲むよう強く勧める利用者に対応する



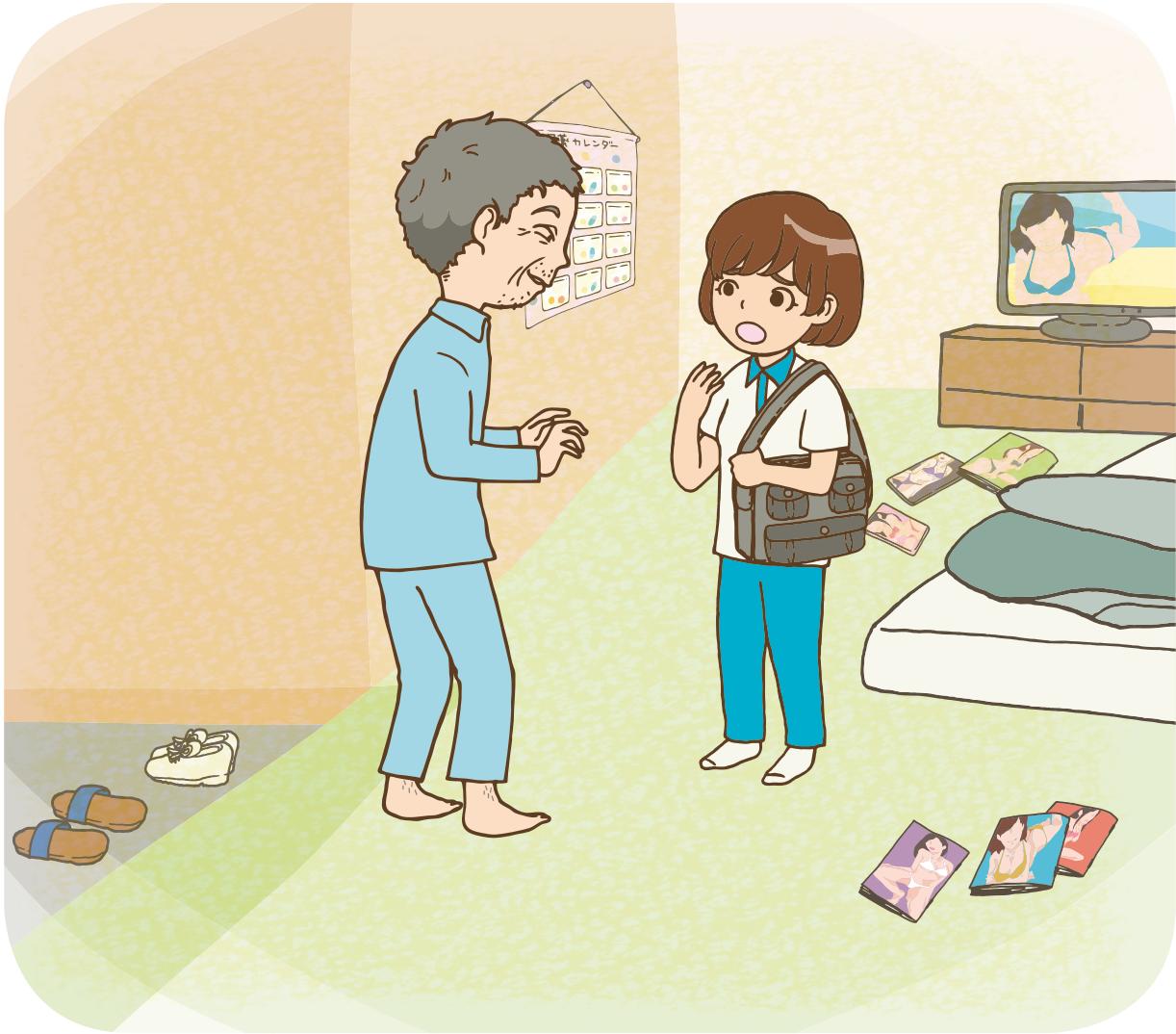
〈状況〉

利用者は精神疾患があり薬物治療をしている。「聞いてもらいたいことがある」と言い、あなたにお茶を飲むように強く勧めてきた。



場面
6

帰る際、近寄ってくる利用者に対応する



〈状況〉

訪問時間が終了し、あなたが帰ろうとすると、利用者が近寄ってきた。

場面
7

利用者と家族のケンカの仲裁をする

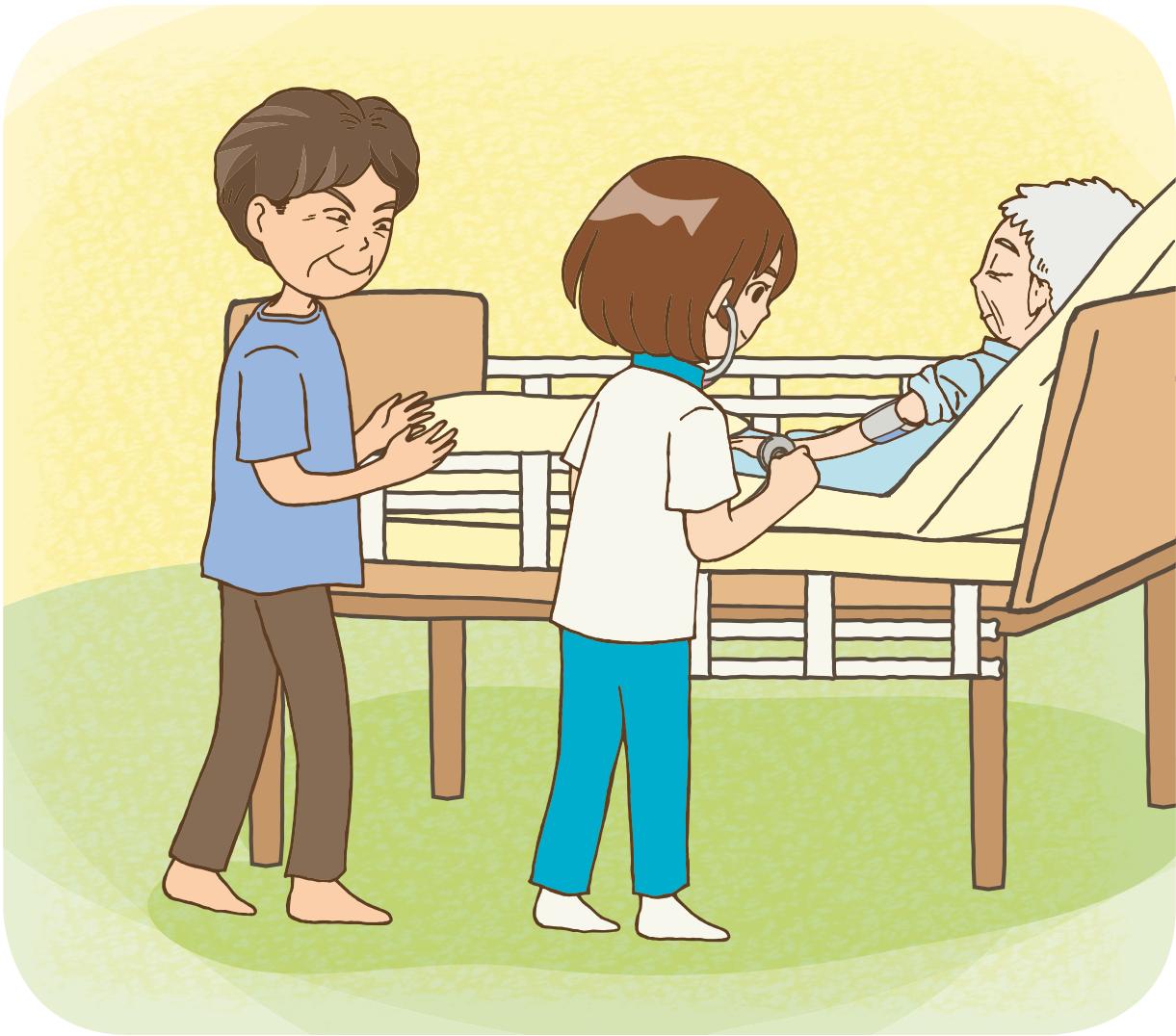


〈状況〉

以前より利用者と妻の折り合いが悪かった。あなたが訪問すると、二人がつかみ合いのケンカをしていた。

場面
8

血圧測定中、不自然に近づいてきた家族に対応する



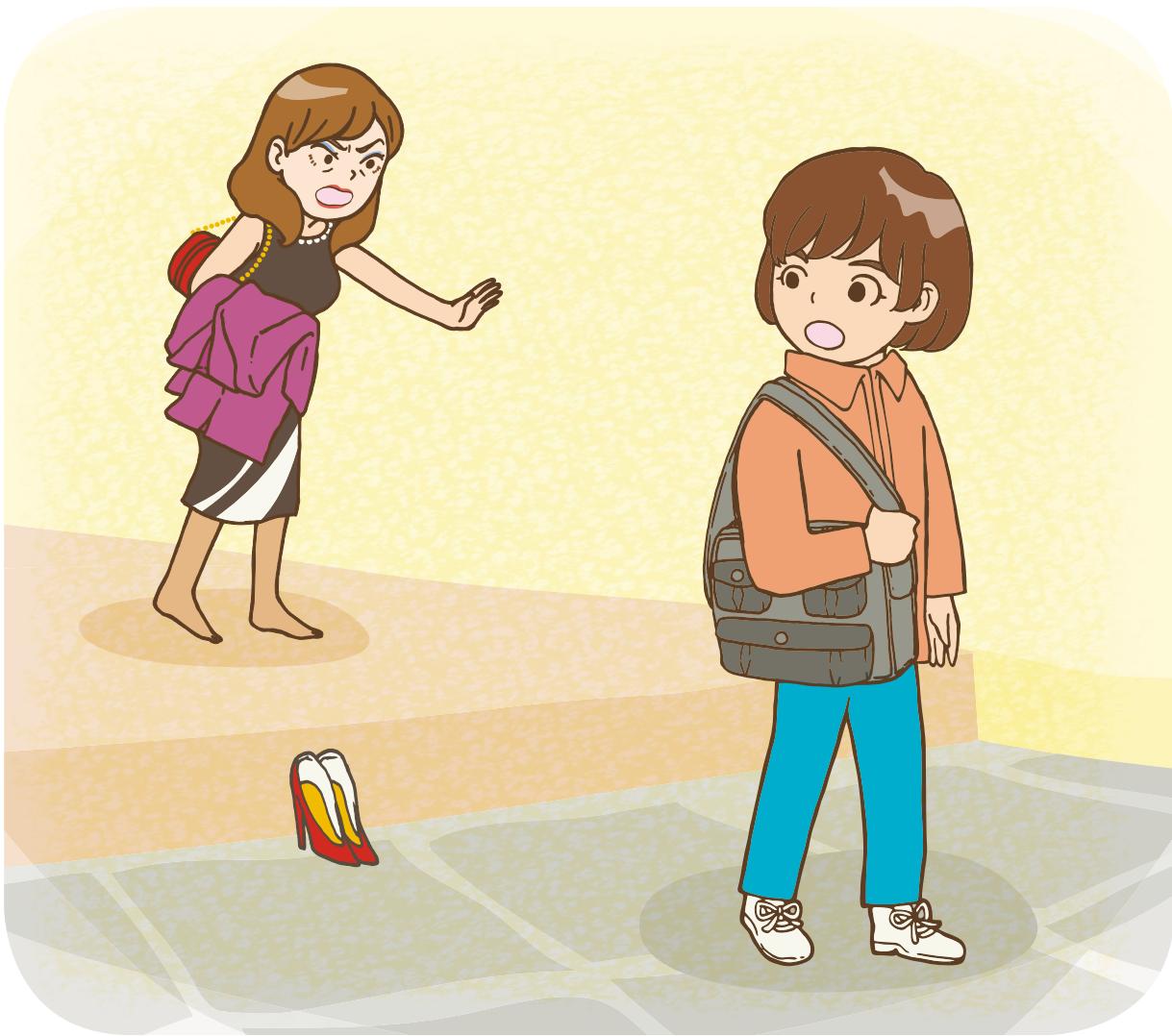
〈状況〉

これまで介護者の息子が、不自然に近づいてくることがあった。利用者の血圧測定をしていると、息子があなたに近づいてきた。



場面
9

業務外の要求をする家族に対応する



〈状況〉

これまで自分の要求が通らないと家族が怒りだすことがあった。訪問終了後、帰ろうとするあなたを呼び止め、「出かけるから途中まで車に乗せてって！」と言っている。

D 暴力のKYTシート

第1ステップ：危険要因を想定する【どんな危険があるのか】

潜在する危険を発見・予知し、危険要因により引き起こされる現象を想定する

	No	危険要因と現象『～なので・・・になる』『～すると・・・になる』と書く
	1	
	2	
	3	

第2ステップ：重大な危険要因と現象を絞り込む【重要な危険は何か】

予知した危険要因と現象のうち重大な危険要因を絞り込む *上の左欄に◎を1つ記入

第3ステップ：具体策【自分ならこうする】

重大な危険要因と現象を解決するために、具体的で実効可能な対策を考える

◎	No	具体策
	1	
	2	
	3	

第4ステップ：チーム行動の目標【私たちはこうする】

具体策から重点項目を絞り込み、それを実施するためのチームの行動目標を設定する

チーム行動目標





訪問看護師のための暴力のKYT場面集

作成日：2017年10月1日

改訂日：2020年1月10日

作成者：武ユカリ¹⁾，三木明子¹⁾

1) 関西医科大学看護学部

2017© 訪問看護師のための暴力のKYT場面集

本場面集の改訂版は、科学研究費補助金（基盤研究C）の助成を受け作成しました。

研究課題名

「訪問看護利用者、家族による暴力の危険予知訓練プログラム構築と実施効果の検討」
(研究代表者：武ユカリ、研究分担者：三木明子 課題番号：15K11573)